

## 大橋 豊彦

### 1 恵庭市の概要

恵庭市は、北海道の中央部、石狩平野の南端、道央圏の中心に位置し、札幌市、千歳市、北広島市、長沼町に隣接している。本道の大動脈である国道36号線やJR千歳線が市内の南北を縦貫するほか、道央自動車道や新千歳空港へのアクセスも容易で、交通の便に恵まれている。



大橋さん夫妻（H30.1.9 自宅倉庫にて）

国道36号線から西側にある丘陵・山岳を水源とする漁川や島松川など多くの河川が東側へと続き、豊かな平野を形成している。そこでは水稲をはじめ小麦、馬鈴しょ、豆類、てんさい、だいこん、キャベツ、にんじん、かぼちゃ、ブロッコリー、加工向け野菜など多くの品目が作付されている。

### 2 大橋氏の経営概要

家族構成	経営規模		左の内 借地面積	輪作体系					輪作の特徴
	水田	畑		平25	平26	平27	平28	平29	
総人員 6人 稼働人員 3人	45ha	1.5ha	9ha	だいこん	秋まき小麦	甜菜	大豆	春まき小麦	・秋まき小麦の前に必ず青果物（ダイコン、馬鈴しょ）を入れている。 ・土壌病害の発生を防ぐため、秋まき小麦の割合を低くしている。

経営主である豊彦さんは、明治32年に曾祖父が富山県からこの地に入植して4代目であり、稲作中心の経営だった父の跡を継ぎ18歳で就農した。就農後、てんさい、大豆、だいこん等を導入し畑作野菜の複合経営農家として30歳の時に自立。平成3年に奥さんと結婚し、その後も土地改良を繰り返しながら規模拡大を進め、現在はだいこん8.5ha、秋まき小麦5ha、てんさい9.5ha、大豆15.5ha、春まき小麦7ha（うち採種3.3ha）、加工用馬鈴しょ1.5haの合計47.0haの経営である。昨年からは長男が就農し、さらなる規模拡大を目指している。

### 3 春まき小麦の生産状況

年産	小麦品種名	小麦栽培面積 (ha)	麦作率 (%)	10a当たり収量 (kg)		上位等級生産量 (kg)	左の等級別検査数量 (kg)		規格外数量 (kg)	規格外を含む総収量 (kg)	総収量対1～2等麦比率 (%)
				農家単収	統情単収		1等	2等			
平成27年	春よ恋	2.6	5	488	445	8,099	8,099	1,289	3,296	12,684	74.0
平成28年	〃	2.9	6	518	327	7,575	7,575	2,859	4,329	14,763	70.7
平均	〃	2.75	6	503	386	7,837	7,837	2,074	3,813	13,724	72.2
平成29年	春よ恋	3.7	8	479	372	15,869	15,869	-	1,996	17,865	88.8

容積重 (g/リットル)	F.N (sec)	蛋白質 (%)	灰分 (%)
847	431	12.9	1.71

## 4 耕種概要等

融雪促進		融雪期	播種			土性	施肥				
時期	資材・散布量		期	量	方法		区分	窒素	リン酸	加里	時期
3月15日	30kg /10a	4月6日	4月11日	13kg /10a	コンビネーションハローシーダーによる碎土・整地同時は種	泥炭土 および 壤土	基肥 BB麦082 7kg /10a	7kg /10a	12.6kg /10a	8.4kg /10a	月日 4月21日
							追肥 硫安粒 20kg /10a	4.2kg /10a			5月26日

除草剤散布		病虫害防除 (植物成長調整剤等)			備考
時期	剤名・散布量	対象病虫害名	時期	使用薬剤・散布量	
4月21日	ガレース乳剤 200ml /10a	-	5月26日	サイコセルPRO 150ml	赤かび病の1回目防除時期については、散布が遅れないよう特に配慮している。
		-	6月21日	カルタイムフロアブル 150ml	
5月7日	ハーモニー75DF水和剤 4.00g /10a	アブラムシ	6月26日	ゲットアウトWDG 3,000倍	
		アブラムシ	7月11日	スミチオン乳剤 1,000倍	
		赤かび病	6月26日	シルバキュアフロアブル 2,000倍	
		赤かび病	7月2日	ベフラン液剤 1,000倍	
		赤かび病	7月11日	トップジンM水和剤 1,000倍	
		赤かび病	7月16日	シルバキュアフロアブル 2,000倍	

## 5 技術の特色

- 土作りの工夫**；近隣の畜産農家からの堆肥を麦稈と交換して、計画的に投入している。計画的に土壌診断にもとづいた土壌改良を行っている。
- 排水対策の工夫**；暗渠を施工し、計画的に補修をしている。根雪前に適切な幅で心土破碎を行っている。平成23年からレーザーレベラの導入により、効率的な表面排水が行えるようになった。

### (3) 輪作体系の工夫

秋まき小麦の前に必ず野菜類を入れている。土壌病害の発生を防ぐため、秋まき小麦の割合を低くしている。

### (4) は種の工夫

コンビネーションハローシーダーの導入により、適期は種が省力的に実現されるようになり、は種精度が向上した。

### (5) 防除の工夫

ほ場観察をこまめに行い、適期防除が行われている。普及センター・JAからの「営農技術情報」を活用した赤かび病防除の徹底。

### (6) 施肥の工夫

早期は種のため、3月中旬に融雪材を散布している。

普及センターから提案された新しい施肥法「チャレンジ施肥(石狩版)」を実施している。



は種作業 (H29.9)

## 石狩管内における春まき小麦の施肥指針（高収量チャレンジ版）

(Nkg/10a)

熱水抽出性窒素区分	総 窒 素 量	施 肥 体 系	
		基肥のみ	基肥+分施
低	12	12	8+4
中	10	10	6+4
高	10	10	6+4

注1) 熱水抽出性窒素区分 低:5mg/100g未満、中:5~10、高:10以上

注2) 熱水抽出性窒素区分の低では、早期播種と物理性改善を考慮するとともに、幼穂形成期までの生育量を確保するため基肥施用を基本とする。

注3) 成長調整剤の使用を前提とする。

注4) 分施は幼穂形成期に4kg/10aとする。

### (7) 収穫・乾燥・調製の工夫

穂水分測定およびこまめなほ場観察にもとづく収穫時期の予測を行っている。

## 6 品質改善の工夫

品質向上のため、JA道央畑作部会長として、以下の取り組みを率先して行っている。

- (1) 種子更新率は100%、種子消毒を実施している。
- (2) 倒伏に対するペナルティ制を導入、雑草が目立つ場合は刈り高を調節したり別刈りを実施している。
- (3) 収穫時の子実水分に応じて、個人乾燥と施設乾燥とを効率的に使い分けた二段乾燥を実施している。
- (4) 生産部会として講習会を通じて生産者全戸に品質分析結果をフィードバックしたり、青空教室の開催により細かな施肥加減を確認するなど、品質の安定化に向けた意識向上を図っている。
- (5) 定期的の実証ほや試験ほを設置し、栽培法の検討、意識向上を図っている。
- (6) JAでは低コスト化に向けた土壌診断の呼びかけを行っている。JAとして自主的にDON検査を行い、良質麦生産に活用している。
- (7) 農業まつりを通じて一般消費者との交流や実需者との情報交換を通じて、良質麦作りに向けた情報交換を行っている。

（ 執筆者：石狩農業改良普及センター本所 地域第一係長 添島 均  
JA道央 農産係長 吉尾 和久 ）